

【資料 8】次期県立高校改革推進プラン策定懇談会

1 策定懇談会委員名簿

【順不同、敬称略】

	氏 名	所 属 ・ 職 名	区 分
1	◎屋敷 和佳	東京都市大学建築都市デザイン学部 客員教授	学識経験者
2	○百瀬 明宏	秀明大学教育研究所 所長	
3	堤 紳一	千葉県市長会・千葉県町村会 事務局長	市町村関係
4	佐久間 勝彦	千葉県私立中学高等学校協会 会長	教育関係団体
5	濱詰 大介	千葉県 PTA 連絡協議会 会長	
6	櫻井 比呂樹	千葉県中学校長会 副会長 四街道市立四街道中学校 校長	
7	釜 范 德行	千葉県高等学校長協会 会長 千葉県立千葉女子高等学校 校長	
8	坂本 雄一郎	千葉県高等学校教職員組合 中央執行委員長	
9	櫻井 伸行	千葉県教職員組合 書記長	産業関係
10	鈴木 鉄也	千葉県社会福祉協議会 事務局次長兼地域福祉推進部長	
11	寫津 昌明	千葉県農業協同組合中央会 常務理事	
12	坂本 雅信	千葉県漁業協同組合連合会 代表理事会長 銚子市漁業協同組合 代表理事組合長	
13	秋葉 吉秋	茂原商工会議所 会頭	
14	下村 俊博	千葉県経済協議会 J F E スチール株式会社 東日本製鉄所 労働人事部長	

◎：座長 ○：副座長

2 策定懇談会協議経過

回	実施日	協議内容
第1回	令和3年 7月26日	○ 現行プランについて ○ 国の方針・他県の実施等 ○ 今後の生徒数の推移と県立高校の適正配置
第2回	8月30日	○ 次期県立高校改革推進プラン【骨子案】 ○ 「基本的コンセプト」、「改革の方向性」 ○ 魅力ある県立高校づくりの推進
第3回	10月19日	○ 次期県立高校改革推進プラン【素案】
第4回	11月11日	○ 次期県立高校改革推進プラン【原案】
第5回	令和4年 1月24日	○ 次期県立高校改革推進プラン【案】 ○ パブリックコメント結果報告



3 策定懇談会における意見要旨

(1) 計画の基本的な考え方

ア 計画の趣旨、目標年次、性格及び策定のプロセスについて

- ・生徒の高校卒業後の10年後、20年後を見据えた教育を各高校でいかに進めるかが基本的なスタンスである。
- ・次期プラン作成に当たり、検討過程において、各市町と十分に対話や協議を行い、進めていただきたい。
- ・魅力ある高等学校づくりが基本であり、人口減少による統合ありきのプランであってはならない。
- ・再編イコール統合ではないことを強調したい。最初に統合ありきの議論ではない。学習の内容改革あるいは学び方の改革、それとともに学科の在り方をセットで考えなければいけない。
- ・財源の問題を、推進に当たっての留意事項、配慮事項のような形で盛り込めたら、この計画がより実効性が高くなると思う。
- ・公私が共同し、中学校を卒業した若者たちの教育を行ううえで、私立学校の存在を視野に入れ、私立ではできないことを公立学校がやるという支援が必要である。
- ・冒頭の「はじめに」のところに「協調・共存」と書かれており、県立高校の改革推進のプランだが、私立学校との連携、協力を推進しながらやっていくということがうたわれている。その他にも私立学校との協調という視点での記載があり、非常に大局的なプランが生まれたと思っている。
- ・今後の県立高校の再編は、自己点検、自己評価を踏まえて行う必要がある。
- ・「次期県立高校改革推進プラン」が今後実施されるが、案について、現場の高校任せにせず、教育委員会がサポートし、現場の高校と一体となり、進めて欲しい。
- ・改革の方向性を現実のものにするには、県教育委員会の学校への支援、具体的には、学習指導支援、教育環境の整備、人事配置及び研修改善、充実、事務室の学校経営の参画、コーディネーターなど外部人材等の配置などが重要である。
- ・せっかく良いカリキュラムをつくり、生徒を募集しようとしても、生徒の数自体が急激に減ってしまうことで、すばらしいカリキュラムや高校が無駄になってしまうことが懸念される。目的意識を持った生徒の入学が減ると、せっかくのカリキュラムが有効にならないのではないか。
- ・このプランを策定した思いを次の担当に必ず伝えていただき、このプランを基に展開できるように、働きかけを是非ともお願いしたい。

イ 県立高等学校の現状と課題について

- ・高校再編は、中教審答申をもとに、文科省からの普通科の今後の改革等についての通知を踏まえた形でなければならない。
- ・今の千葉県の高等学校教育を見て、どうあるべきかという視点がもう少し明確に出てくるべきではないか。
- ・進路の選択については、学力もあるが、地域の状況や、家庭の状況等が選択の際に大きなウェイトを占める要因の一つにもなっている。
- ・学習経験、言語環境について、本県でも触れるべきだと思う。
- ・経済産業構造に関して、現在日本の漁業は、産業・職業として、どのような方向に進むべきか、非常に問題を抱えている。職業としての漁業産業界がはっきりしない

中で、漁業を学ぶ学生が、魅力ある産業として来てくれるかどうかが問題である。

- ・工業を勉強したい、園芸を勉強したいと高校に入学してきても、進路が変わることはある。高校はいろいろな可能性を広げるところであってほしい。学科やコースもありだが、普通科はどこにでも進める、どんな方向性でもある科だと思う。
- ・10年後の中学校卒業生が6,200人減、その間も毎年減ることは、非常に衝撃的であった。
- ・今後、千葉県でも生徒が減少していく中で、特に南部の地域の在り方を検討する時に、地方創生を絡めていくのが重要なポイントである。
- ・定員割れが即統合とならぬよう、「人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう」という部分について、きちんとバックボーンにしていきたい。
- ・「これまでの再編により高校が離れて点在している状況にあります」については、本当にそのとおりである。こういう現状認識が必要である。
- ・私立学校と市立高校を含んだ公立学校、それぞれの学校が本県の高等学校教育を担っていくということをきちんと書くべきである。
- ・期待を持って高校へ行けるようにするには、生徒はもちろん、中学校の教職員が、高校の特色をしっかりと理解する必要がある。
- ・高校がいかに魅力を発信していくかが高校選択において非常に大事である。今後、インターネットやSNS等によって高校の魅力を発信し、子供たちや保護者が学校を選択する大きな材料として捉えるようになると、高校にもプラスになる。

ウ 「基本的コンセプト」及び「改革の方向性」について

- ・高校再編の必要性は言うまでもない。人口も減り、これからますます変わっていく予測不可能な時代を迎える。一方で地方創生も、待ったなしである。さらに、グローバル化の進展、AI、IoTとますます進む。学校ではGIGAスクール構想。これからは、他者と協働して課題を解決する力が、絶対的に必要不可欠な能力である。さらには、様々な情報を見極め、情報を再構築して、新たな価値を創造する能力。
- ・これからの改革は、高校や学科の在り方という学校のハード面を中心に考えるのではなく、生徒の学びの視点に立たないといけない。探究的な学びやSTEAM教育、学び直し、基礎・基本の定着といった部分があり、それらと連携して学科や学校の在り方というのが考えられるべきである。
- ・知識の習得も大事だが、生きる力、考える力を育む場の提供を期待している。
- ・高校の教育活動が、基礎基本だけになっていないか。基礎・基本と探究活動が車の両輪のように動いてこそ、学びのモチベーションへとつながる。
- ・Society5.0のように、今、国が直面する課題を踏まえ、どのように普通高校、専門高校の再編をしていくのか考えていただきたい。
- ・キャリア教育の充実に関して、現在、総合学科で必修科目である「産業社会と人間」を、全高等学校で採択するなど、県教育委員会としてキャリア教育の充実を力を入れるべきである。
- ・授業内容と、出口の保障ということでの進路指導やキャリア教育の充実がセットにならないと、魅力ある学校づくりはできない。
- ・グローバル化が進み、外国籍の子供、あるいは外国に由来する子供の数が増えている。そのような子供たちが、高校でしっかり対応できているのか。特に教育は社会のインフラでもある。これも魅力ある高校づくりとして考えていく必要がある。
- ・今の学校現場において、忘れてはならない存在として、外国につながる生徒の存在がある。今、小・中学校に増えている。やがて彼らは高校に来る。そういうことも

受け入れつつ歩む高校の在り方は10年前とは違う。

- ・生徒の視点に立った学びをつくる時に、まず学校の存在意義は何か、この高校は何を
するところなのかというスクール・ミッションの再構築が必要不可欠である。
- ・「教職員が生き生きと活動できる環境」については、ぜひ実現していただきたい。
- ・高校再編を進める上で一番大きいのは、学校長のリーダーシップは言うまでもないが、
具体的に管理職とともに進める教員の育成・養成が教育環境の整備の一つに入る
のではないかな。
- ・義務教育段階において一人一台端末環境で学んだ児童生徒が高校に進学しても、
切れ目なく同様の環境で学ぶことができるよう、高校でも必要な機器を整備し、
効果的な教育を行うことが重要だと考えている。
- ・多様な生徒を相手に、私たち教職員が生き生きと活動できる環境といえば、一つは
余裕である。その余裕を生み出すには、まずは40人学級の解消だと思う。
- ・ハード面での充実は、否が応でも進めなければならない。
- ・小・中学校の建物が非常に快適になり、学習するにもICTの設備も含めて、非常に
充実している。その点、県立高校はいかがか。総合的に考える必要があるのでは
ないかな。
- ・魅力ある高校、特に私立高校の場合は非常に華やかな魅力のある建物があるが、
県立高校の場合は果たしてどうだろうか。老朽化したまま放置されてはいないかな。
- ・それぞれの地域において、特性がこの先も残っていくことが千葉の強みになるのでは
ないかな。
- ・公立高校には、三つの武器があると思っている。一つは7,000人の高校の教職員が
いること、二つ目として、市町村と手を組めること、三つ目は産業界等と手を組める
こと、これら三つをフル活用すれば、地域と連携した学びは可能である。
- ・地域振興の将来の担い手である高校生たちが、目的意識を持てるよう、意識づけの
機会を提供するような改革が必要である。
- ・教育だけではなく、産業界や、産業構造全体の問題も絡んでくるが、少なくとも、
高校が地域の中にあつての存在だということを強力に進めるべきである。
- ・地域の重要性をしっかりと書き込んでいただいたことは、非常に評価できる。
- ・もっと高校が地域に学校を開き、地域に貢献する存在であることをアピールする
必要がある。
- ・地域の課題に学校だけではなく、市町村、企業、各種団体、各役所等が一体となり、
取り組む必要がある。
- ・学校に教職員としてのプラスアルファではなく、学校・地域・市町村をつなげる
ような、例えば市役所や町役場に、そういう特化したコーディネーターを配置して
いただけるのが良い。
- ・県立高等学校卒業後の進路状況について、高校の問題だけでなく、中学校の職員も、
中学校を卒業させて、子供たちを高等学校に送り出す時に、どのようなことを
理解していて、どのような思いを持って進路指導していくことが大切か、考える
よい機会となった。
- ・高校生が、将来こういうことを目指して、今頑張っているといったことを話題に
しながら、小学校の子たちと交流することにより、中学校に行ったらこういう高校を
目指したいなど、具体的な部分が、年齢が近い高校生との話合いで進んでいくことも
非常に効果があると思う。
- ・小・中学校、高校、特別支援学校とあるが、大学・短大・専門学校など、高等教育機関
との連携も必要ではないかな。

- ・ 隠岐島前高校のように、内地留学、国内留学という形で他県からも多く生徒を募集している実態を考え、入試制度の改革もセットで考える必要もある。
- ・ 地域との連携を主としてやってくれるスタッフが必要である。
- ・ 教育環境の整備について、生き生きと学ぶために、安心して生活できる場である必要があると感じている。
- ・ まず、指導支援。学校のソフト面の指導に関して、さらに指導内容・指導方法あるいは研修の在り方について、良い意味でより指導を強めなければいけない。次に財政支援。人的な配置が大きな課題になる。そして、学校経営。校長の在り様も大きな課題である。次に事務室の改革。学校経営にいかに関与していくか。最後に、ハード面での環境整備。それらが一体となって初めて今回のプランが実効性を持つてくる。
- ・ 千葉県で生まれて中学校まで育った生徒が、将来どのようなキャリアを積みたいと思っているのか、「それにはこういう学校がある」という形で、高等学校が対応する。そのための再編計画を練るのが、今求められている Society5.0 時代、生徒を主役にした高等学校の編成であると思う。
- ・ 様々な知恵を合わせ、新しいモデルの形の高校をつくっていただきたい。例えば、都市部において1～2校を統合し、進学校に特化したモデル校、あるいは中堅校のモデル校など、つくっていただきたい。
- ・ 魅力ある高等学校づくり、広報の大切さ、あるいは各高校の特色をいかに明確に出すか。

エ 計画実施上の重点事項について

- ・ 県の産業政策との関連を踏まえ、人材需給のマッチングをどう図っていくか。
- ・ 高校に出てからどのような仕事に就くかを子供たちがイメージできる仕組みをつくるためには、地域との連携は必要だと思っている。
- ・ 職業系の専門学科を選択した学生には、インターンシップを必ずやらせよう。実際に現場に行き、その職業はどのようなものかを見てもらうことを考えたかどうか。実際の地域で、その職業を知る、現場を知ることによって、地域を知る、職業への理解が深まる、経験値を上げることができる。次のステップとして、実際にその職に就くのかどうか、その職に就くためには必要な資格はどんなものがあるかを考える。これにより、専門学校や大学で深く学ぶ選択肢が出るなどの判断基準を持つのではないか。
- ・ 職業系の専門学科について、いろいろな学校に行った時に、「ここに行っても、専門的な学校に行っても、いろいろな進学先や就職先があり、様々なコースがある」ということが分かるような形が良い。卒業後の進路がもっと明確になることにより、中学生が高校に行った時に、進路がそれぞれ幅広く分かることで、安心して進路を選び、そして高校に行っても安心して生き生きと過ごすことができるようになるのではないか。
- ・ 戦略的広報については、本当に大切である。特に中学校の方で感じているのは、生徒や保護者への広報も大切だが、中学校や小学校の方では非常に若年層の教員が増えてきている。中学校や高等学校の教員のほとんどは、自分自身も普通科の高校に進学し、大学に進学して教員になったという職員である。そのため、職業系のコースや学科についての理解が必ずしも十分でない職員もたくさんいる。
- ・ 公立に比べると私立の方が情報発信力が強く、私立の方が容易に情報を得ることができるという印象を持っている。
- ・ 職業系専門学科の戦略的な広報として、成功しているOBなどから、中学校の

保護者や中学校の職員に対しての講演などが効果的ではないか。3年間の学びの出口を成功例とともに見せることが必要だと考える。

(2) 魅力ある県立高校づくりの推進

ア 普通科について

- ・普通教育を主とする学科の中にコースを設けるとか、いろいろな形で幅広い、普通科ではない普通教育を主にしながら、いろいろなアクセントを置いた個性の伸長を図れるようなコースを置くのが望ましい。
- ・普通科に対しても様々なコースを設定することで、偏差値の物差しで選択する状況を変えなくてはならない。それが個別最適の学びである。
- ・普通科の進学コースを選んだ生徒にも、職業系の専門学科で一定程度の単位を取得することを考えたかどうか。
- ・特に普通科は、明確な目的意識がないまま、高校生活を過ごすことになるおそれもあり、その意識づけが重要であると考ええる。
- ・現行の学区制を厳密にし、地元の中学生は地元の高校に通うことを大原則にしたかどうか。そうすることで、地元の高校が存置できるのではないか。
- ・5教科プラスアルファだけではなく、もう少し5教科の中でも細分化するとか、実技も含めて多様な科目を用意することが、高校再生の一つの鍵である。
- ・普通科の枝分かれがすごい。中学が終わる15歳で判断する時に、どこに行ったらいいかわからないのを、さらに細分化していること自体、選択を難しくしているのではないか。
- ・現実的には、大学進学率で生徒を集めようとしている。そのような普通科を変えなければならない。
- ・生きる力、実際に自分が物を生産する、あるいは経営することを経験してもらうことを考えたかどうか。
- ・もう少し自分の進む道について、キャリア教育を小、中、高とやってくると良い。

イ 国際科、グローバルスクールについて

- ・国際関係科と国際関係コースとはどう違うのか。実際に高校を選択する子供にとって、非常に気になるところである。詳細がわかるように広報していただけるとありがたい。
- ・グローバル化、国際化という言葉がたくさん出てくるが、国際化やグローバル化が全然進まない中途半端な状態である。カリキュラムややり方を変えないと、ただ名前だけで、中身は何もないということになるのではないか。
- ・千葉県から国際的な人材を育てるには、あまりに程遠い内容のように推察する。
- ・改革を行うのは良いが、成果が上がったのかどうか、中身がどうだったかについて、今後、検証ができるよう担保することを考えた方が良い。

ウ 理数科について

- ・実際には学力上位の人が理数科に行き、理数科を出る際には、理数系の学校に全然行かないということもある。
- ・理科や数学に興味を持っている子供たちはたくさんいる。中学校での指導の問題もあると思うが、なかなか15歳の段階で本当に専門的に理数科の方に進んで良いのか、自信が持ち切れない生徒が見られる。そのため、普通科の理数系のクラスに進んだ方が良いのではないかと考えている生徒たちも結構いる。
- ・理数科の充実に関して、国のSSH事業に依存している感じが強い。今後の

S S H事業に関しては、理数科に特化するよりも、むしろ理数科でこれまで確立してきた探究活動を全学科に拡大していく方向である。県教育委員会として、千葉県の理数教育を独自の施策で拡充していく方法の検討が必要である。

エ 農業科について

- ・農業関係の学科で、後継者一本という子はあまりいない。できれば兼業農家の担い手、あるいは農業に関心のある生徒を輩出できればよい。
- ・インターンシップについて、農業の現場を知ってもらう、先進の農家に触れることは、非常に有効な手段である。
- ・以前、スマート農業について、どんな取組をしているか学校に伺った。ドローンについて、若干着手しているという意見もあったが、生徒さんにスマート農業を学ばせたいが、なかなか器具、備品が整っていない、不足しているという声もあった。
- ・農業科に限らず、自らの実体験に基づいて、地域なり地域の産業を見る目を養う必要がある。

オ 工業科について

- ・企業との連携も含め、どのような方法があるのか、考えていく必要がある。
- ・千葉県は、工業科の定員が決して多くない。産業界としては非常に貴重な存在である。
- ・工業科に進まれた生徒には、いわゆる工業分野を今後の進路として選択してほしいという思いは強く持っている。もちろんこれは直接就職でなくても良い。
- ・今後の進路を希望する率を上げていく方策も必要ではないか。
- ・個々の生徒の希望を縛る形になるようなことは絶対やってはいけない。そうならないような目標の掲げ方というのは工夫が必要である。
- ・産業界の人間として、どういった協力ができるのか、社会に関心を持ってもらえる働きかけができるのか、一緒に考えていきたい。これは私たち自身にも突きつけられた課題として認識している。引き続き、連携していきたい。

カ 商業科について

- ・高校は思った以上にダイバーシティーが進み、様変わりをしている印象を持ったが、さらに改革を進めていく必要がある。
- ・第1志望、第2志望という形で、それぞれの学校でどう集めるかではなく、第1志望はこの学校で、第2志望は、少し離れたところでもここで学びたいというのが、「生徒が主役」ということである。
- ・現在銚子商業高校の中に海洋科があるので、商業科の中に海洋科の学びを入れることが考えられる。商業科の方にも書かれている観光ビジネスの学びについて考えると、例えば水産科のダイビングは、まさに観光ビジネスになる。
- ・同じ高校の中で単位として、他の商業科とか、さらに別の学科を学ぶことができると良いのではないかな。
- ・企業と教育機関が連携し、高校生対象のビジネスコンテストを実施し、探究する力を身に付けていけるとよい。そのための支援の充実に努めていきたい。

キ 水産科について

- ・日本の漁業をどのように作り直すのかが最大の課題であり、教育とどのように結びつけるかが非常に重要である。
- ・沿岸であっても海洋環境の調査や資源の調査、さらには、沖合に洋上風力発電等の

施設が出来るため、そこでの仕事が増えていくことが考えられる。

- ・千葉県では、観光やスキューバダイビングなどのレジャーに加え、現在は洋上風力発電など海を使った新しい仕事が増えてきている。千葉県の立地を生かし、子供たちに対して魅力のある、水産関係、海洋関係など全ての海に関する産業と結びつく教育をつくっていただきたい。
- ・海洋関係において、新たな仕事が増えていくと予測される中、船を使った仕事は減らないと思っている。
- ・遠洋航海をするため、船にもかなりの費用がかかる。これから先、船を更新していくことになれば、かなり予算も組んでいただかなければならない。その中で本当に必要なかどうか、将来は考えていかなければならない。
- ・船がない水産関係のコースというものはあり得ない。
- ・水産産業の魅力を、果たして15歳の人たちにどれくらい分かってもらえるのか。
- ・選択肢を広げる学際的な科目も海洋科に入学する時に付与してもらいたい。海洋科、または水産科に限定せず、生徒募集の時に選択できる仕組みも考えてもらいたい。
- ・県内に複数ある海洋科について、それぞれの地域の状況を踏まえた上で検討してもらいたい。逆に、「その地域の特性を踏まえた」というところについて、これからどういう形でそれぞれの地域が残っていくのかを考えた上で、地域の教育のために高校を残していくという考え方を持ってもらいたい。
- ・水産教育について、本気で学びたいと思えるような内容であってほしい。
- ・高校の海洋科も、海洋環境や地球温暖化など、地球における問題も海洋科で学ぶことができることを広く知ってもらえるように、中学や我々のような業界団体とも連携していただきたい。
- ・全県を対象にした募集をかけられる高校、海洋科に変えていくことが必要になる。

ク 福祉科について

- ・工業や農業のように、福祉科、福祉コースが連携したコンソーシアムができないか。
- ・福祉の学びをした生徒の卒業後の進路について、福祉の学びが必ずしも進路に直結していない現状がある。
- ・普通科の高校生で福祉に興味・関心があり、学区内で福祉の学びの機会があれば、さらに地域の中で連携した形で展開できる。
- ・将来の福祉人材に教育なり、学びの場を提供する、もしくは職員が出向いていくというやり方も一つあると思う。
- ・特に郡部の高校における生徒募集や福祉の選択者数については対策が求められる。
- ・福祉への就職につながるよう、高校在学時の福祉教育の展開を期待したい。
- ・地域には、高齢者施設や、障害者施設などの介護関係施設もある。保育分野であれば、保育園や児童福祉施設などがある。施設に協力を仰ぎ、技術を学ぶ機会として学校に来ていただき、高校生に教えていただくことができれば、さらに学びが充実する。

ケ 総合技術高校について

- ・海洋科の生徒が水産教育だけを学ぶのではなく、商業、家政など学科を超えた連携が今後求められてくる。第6次産業のように生産から加工・販売まで一元的に実施する産業のニーズに合ったカリキュラムをぜひ開発してほしい。

コ 総合学科について

- ・総合学科に入った生徒が充実した学びができる形で系列を考えることが、肝要かと

思う。

- ・全国の総合学科の系列を見ても、学校によって様々である。一つの学校でも、時代によって系列を組み替えてやっている。

サ 単位制高校について

- ・学年制ではないのが単位制高校であり、大学と同じように必修科目、選択必修、選択というように、大学と同じようなことを高校でやるという認識を持たないと、大規模というところで喜ばせてはいけない。
- ・敷地、校舎の件は、中途半端にやると、かえって生徒の選択ができなくなる。学級数、募集学級よりも 1.5 倍ぐらいの教室数がないと、多分実施できない。ぜひそのくらいの覚悟でお願いするとともに、多くの系列、あるいはコースをつくる形になった時に、少人数での科目展開が実施されとなれば、当然、教員数は専門的な分野及び人数が必要になるので、ぜひ併せてお願いしたい。
- ・県立高校は今、建っている校舎に 1 学年 10 クラス入れるのがマックスである。現存でその規模の校舎しかない条件の中で単位制高校を考えると、授業展開のために多くの教室が必要になる。大規模単位制高校ということであれば、新たに校舎を建てなければ厳しい。大規模な新校舎を建てる覚悟でこれを記載しているのか。その予算を取り、千葉県がそういう高校をつくる覚悟であれば、大変ありがたい。
- ・学科・コース、系列、単位制高校、この区分けはどうなっているのかを明確にしてプランを出さないと、中学生には分からない。

シ 中高一貫教育校について

- ・地域によっては、今後、地域協議会の中で要望が出てきた際には、多様なニーズにぜひ即してもらいたい。一方で、市町村立の中学校との関連性も出てくるので、丁寧に行わなければいけない。十分に地域のニーズを把握していただきたい。

ス 観光・環境・防災に関する教育について

【観光】

- ・水産科のダイビングは、まさに観光ビジネスになる。

【環境】

- ・食の基本である農業や漁業は、学科の配置や学校の配置も含めて大事だと思う。今後は、治水や保水、国土保全、環境などの側面も必要になる。

【防災】

- ・高校も知の拠点であるとともに、防災の拠点でもあるはずである。もっと高校が地域に学校を開き、地域に貢献する存在であることをアピールする必要がある。
- ・小・中学校はもちろん地域の拠点となっているが、高校も知の拠点であるとともに、防災の拠点でもあるはずである。

セ 地域連携アクティブスクールについて

- ・地域連携アクティブスクールを含め、学び直しをやっている高校が 40 校近くある。それだけニーズがある。もっとフレキシブルな仕組みを広範につくるべきではないか。アクティブスクールをさらに配置検討すると同時に、どこまでいったら、その指定を解除するのか、併せて考える必要がある。
- ・地域連携アクティブスクールの有効性は既に検証済みである。
- ・新たに 4 校程度とあるが、学区が 9 だとすれば、適正配置との整合性を考えた場合に、

少なくとも学区に1校という考え方が、まず大原則ではないのか。

- ・子供が大人と接する機会が増えることで、仕事に対する意識や、自分がやりたいこと、自分が本当に思っていることなどについて、考える時間も増えるのではないか。

ソ 定時制高校について

- ・もっと昼間定時制でフレキシブルな制度に伴う学校をつくっても良い。
- ・定時制の生徒は多様である。働きながら通う生徒よりも、中学校まで不登校だった生徒が圧倒的に多い。日本語を母語としない生徒ももちろんである。L G B Tの生徒もいる。多様な生徒への対応を抱えているのが今の定時制である。通信制も同様である。
- ・地域では夜間しかないが、夜間しか来られない生徒、あるいは社会人の方もいる。そのことは意識していただきたい。
- ・夜間をなくしてしまったら、通うところがないという地域もある。生徒数がないから即廃止というようなことはなく、十分に見ていただきたい。
- ・定通併修や通定併修といった定時制と通信制とのより緊密な関係性がさらに求められるのではないか。それが、ある面では県立学校の役割ではないか。
- ・専門スタッフについて、定時制だけではなく、できるだけいろいろな場面で専門スタッフによる支援体制をつくっていただけると良いと思う。

タ 通信制高校について

- ・通信制は、今回のコロナ関連で、オンラインやI C Tの活用において、非常に存在価値が大きくなってきている。もう一回リセットしたい子供たちの新たな場所となるよう、さらに議論を進めていただきたい。
- ・中学生がますます通信制高校に行っているのが現状である。今はもうタブレットから、オンラインで自分の知りたいことについて、わざわざ通って教えてもらわなくてもよい。自分で自分の才能を伸ばしていくことができる。
- ・通信制の県立高校を大規模単位制高校にしたら良いと思う。
- ・本県では、千葉大宮1校だが、もう1校、どこかに開設することを考えても良い。
- ・千葉大宮の先生が館山の方まで行く状況がある。これはかなり時間もかかり、もったいないことである。

(3) 県立高校の適正規模・適正配置

ア 適正規模・適正配置について

- ・中学生に選ばれる学校でなくてはならない。次期プランでは、県立高校の活性化につなげたい。
- ・中学生が高校選択の機会を確保する必要があることを考えると、地域の工業、農業、林業、水産高校の維持や充実についても検討していただきたい。
- ・「学校ありきという時代は終わった。」と考え、「県が設置する高校は生徒に合う形でよい」と発想を変える必要がある。ただ、地域の産業を担う者を育てなければいけないので、「地域」という視点も大事である。
- ・地区によって学校数にはっきりと違いがあることを改めて実感した。南の地域や東の地域は、生徒数が少ない、人口が少ないこともあるが、内容が、それぞれの地域、少ないところにきちんと保障はされているのか。
- ・郡部等では、統合を決定する前に地元自治体と十分話し合いをする。生徒数がどうなったら統合を検討するかといった統合の検討手順の明示もお願いしたい。

さらに、1市町で一つの学校しかない場合は、他県のように特例校として存続させるといった配慮も検討いただきたい。地元自治体が高校に対して様々な支援等を行うようなことがある場合は、特に配慮していただきたい。

- ・地方創生や地方振興の観点から、現在、1市町に1校しかない高校への配慮についても検討いただきたい。
- ・どうやったらその地域の生徒が学べる場を確保できるのかということを考えなければならない。その場合、単に教育界だけではなく、圧倒的に地域創生、関係自治体との十分な協議、あるいは自治体と協議しながら進めていかないと、高校の意義はなかなか難しいものになる。
- ・統合の計画を進めるに当たり、特に地方において、遠距離の子供については、きめ細かく、どうするかということを検討してほしい。
- ・都市部においても、子供が減少していることから、全般的に高校の選択肢や地方創生に関して、考えていただきたい。
- ・今後の生徒数の減少、県立高校の適正規模、適正配置について、都市部への流入、私立への流出等の課題を踏まえ、公私共存の理念に基づき、学校の存在意義は地域のため、中学生が地元に通う姿が理想である。
- ・県内のどこに住んでいても容易に通える範囲に様々な種類の高校、学科があるという今の状況を、極力、維持していただきたい。
- ・ある程度の規模がなければ、生徒だけではなく、先生の数と質も保てなくなってしまう。生徒がきちんと学んでいく、教育によって目覚めていくというのは、先生の力が非常に大きい。教育予算も必要だが、それぞれ適正な規模があつてこそ先生たちも安心して教育をすることができる。さらに教育の質も、しっかりそれなりの規模を持っていないといけない。
- ・生徒主役ということは、まず生徒がどのような教育を受けたいのか、その思いに対応した高校教育という柱の方が中心になるのではないか。生徒がバブル期からずっと減少してきている。それから地域は変わってきている。この10年間、学校はどのような立ち位置をするのか。それが問われている。
- ・今後、県立高校が再編されていく中で、市立高校の位置づけを含めた上での連携、県立、市立高校の存続も含めた検討をお願いしたい。